

彦根市立病院



彦根市立病院
〒522-8539 滋賀県彦根市八坂町1882番地
TEL : 0749-22-6050(代)

問い合わせ先 彦根市立病院 地域医療連携室
TEL : 0749-22-6053 FAX : 0749-22-6093



いつもありがとうございます

大切な眼を 守り続けるために！

眼科副部長 森 崇正



今年4月に滋賀医科大学から彦根市立病院に赴任いたしました眼科の森崇正と申します。

今まで眼科は非常勤医師による体制で外来診察は月曜日から木曜日となっておりましたが、4月から常勤医師2名になり、金曜日も含め2診体制で外来診察を行っております。水曜日と金曜日は滋賀医科大学から非常勤医師に来ていただき、大学病院と連携を取りながら診療にあたっております。

手術は月曜日、火曜日の午後で、白内障手術が主ですが、翼状片のような外眼部の手術、加齢黄斑変性、糖尿病黄斑浮腫、網膜静脈閉塞症などの網膜疾患に対する硝子体内注射、後発白内障、網膜裂孔、糖尿病網膜症等に対するレーザー治療も行っています。白内障手術は1泊2日の入院手術と日帰り手術の両方を行っており、患者様の希望に応じて相談しながら決定しています。

当院は総合病院ということもあり、全身疾患に伴う

眼病変も他科と連携しながら治療に取り組んでおります。また、非常勤体制の時は導入が難しかった、糖尿病網膜症や網膜閉塞疾患に対する蛍光眼底造影検査も行っており、より適切なタイミングでの眼科の治療介入ができるよう心がけています。

当院で対応が難しい重症の患者様に関しましては、適切な治療を受けられるよう大学病院等の専門性の高い病院をご紹介します。

高齢化、平均寿命の向上に伴い、白内障や緑内障等の患者様もますます増加していくと考えられます。視機能の障害は今後のQOLの低下につながります。子供から大人まで地域の皆様の目の健康を守っていけるよう努めて参りますので、視力低下等、目の症状でお困りの患者様がおられましたら気軽にご紹介いただければ幸いです。

彦根市立病院 地域医療連携室

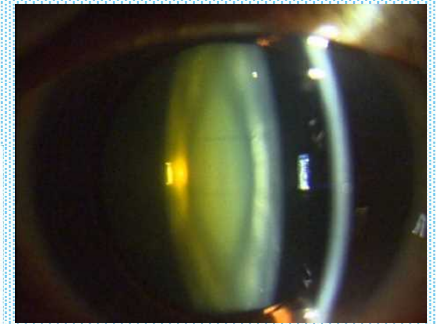
業務時間：月～金曜日：午前8時30分～午後7時(但し木曜日は午後5時15分)土曜日：午前9時～午後12時30分

連絡先：地域医療連携室 TEL0749-22-6053(直通) FAX:0749-22-6093

◆白内障

水晶体という眼球内のレンズが様々な原因で混濁してくる疾患です

むし しゅうめい
水晶体が混濁することで、霧視や羞明、単眼性の複視や視力低下をきたします。原因として最も多いのは**加齢によるもの**ですが、アトピーや糖尿病等の全身疾患により若年性に発症する方もおられます。
また、先天性、外傷、放射線、ステロイドのような薬剤によっても生じることがあります。**当院では成人の白内障に対して外来、または1泊2日の入院手術**を行っております。



◆緑内障

主に眼圧によって視神経が障害されることで視野障害や視力低下をきたす疾患です

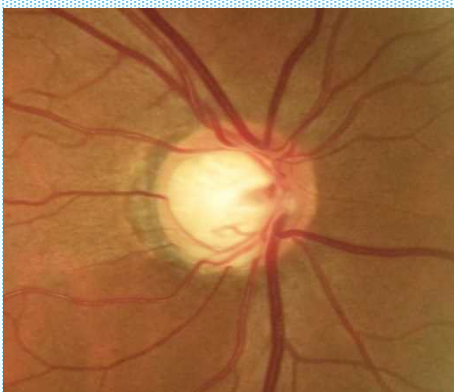
いくつかのタイプがありますが、日本人に多いのは正常眼圧緑内障であり、眼圧が高くなくても緑内障が進行していく方もおられます。

治療は、**眼圧を下げることで視神経へのダメージを減らし、進行を遅らせること**です。当院では点眼による薬物療法を主に行っております。一部の閉塞隅角緑内障の患者様には隅角という房水の出口を広げる目的でレーザー治療や手術を行うことがあります。

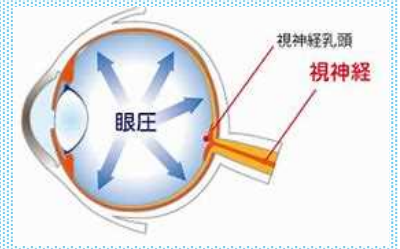
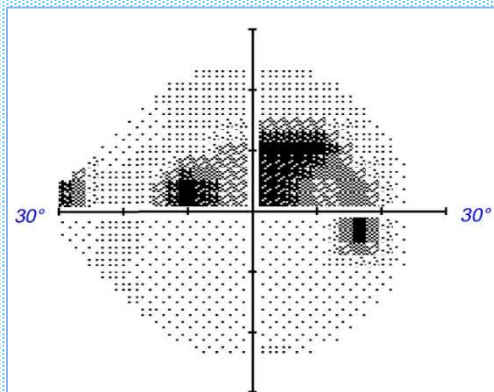
40歳以上の約20人に1人は緑内障であったという報告があり、珍しい疾患ではありません。



緑内障性視神経障害



緑内障による視野障害



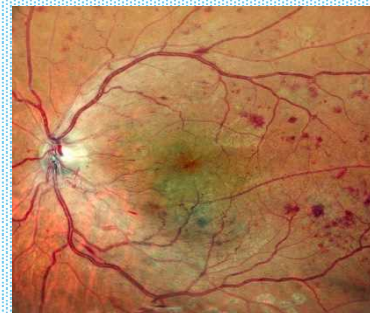
◆糖尿病網膜症

糖尿病では血液中の糖がふえることにより血管が傷んでいきます。網膜（カメラで例えるとフィルムに相当します）の血管が傷み、出血、白斑、網膜浮腫を生じたものが糖尿病網膜症です。

当院では



進行すると硝子体（眼内の大部分を占めるゲル状の透明な組織）に出血をきたしたり、未熟な新生血管の発生により、血管新生緑内障を発症して失明に至ります。



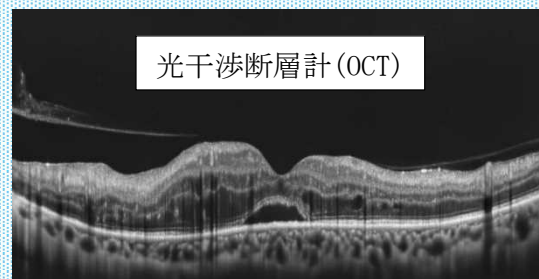
糖尿病網膜症

軽度の糖尿病網膜症	定期的な経過観察
病期が進んだ糖尿病網膜症	蛍光眼底造影検査で網膜の虚血の程度を確認し、広範囲に虚血を認める場合は進行予防のため、汎網膜光凝固術というレーザー治療を施行

糖尿病黄斑浮腫とは・・・

網膜浮腫が黄斑部（網膜のほぼ中央にある視力に重要な部分）におよんだもの。症状は、もののゆがみ（変視症）や視力の低下として自覚されます。ただし、症状の現れ方はさまざまで、視力の低下に気付かないこともあります。黄斑浮腫になってから長い時間がたつと、視力の回復がむずかしいこともあります。

糖尿病黄斑浮腫では、VEGF（血管内皮細胞増殖因子：vascular endothelial growth factor）が、血管の透過性亢進や網膜浮腫に関与しています。当院では、VEGFの作用を打ち消す薬（眼科用VEGF阻害剤）を硝子体内に注射で投与する治療を行っております。これにより、網膜血管の透過性を抑制し、網膜浮腫を軽減させることで、視力の維持、改善が期待されます。



糖尿病黄斑浮腫

◆網膜静脈閉塞症

網膜の静脈が閉塞して血液が流れなくなる病気です

40歳以上の日本人では有病率は2.1%との報告があります。男女共に有病率は年齢と共に増加する傾向にあります。

網膜静脈閉塞症は、眼球の後方にある網膜中心静脈が閉塞する網膜中心静脈閉塞症と静脈が網膜内で枝分かれしている部分が閉塞する網膜静脈分枝閉塞症に分類されます。発症の原因は異なりますが、どちらも基本的な治療方針は変わりません。自覚症状は、視野が欠けたり、ゆがみ（変視症）や視力の低下です。とくに、黄斑に出血や浮腫があると、視力は急激に低下します。ただし、症状はさまざまで、視力の低下に気づかないこともあります。網膜静脈閉塞症に関しても、VEGFが、網膜血管の透過性亢進や網膜浮腫に関与しています。

当院では



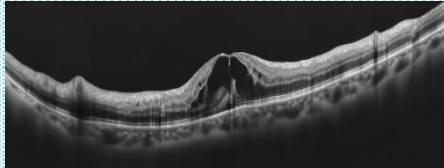
黄斑浮腫を生じている患者様に関しては抗VEGF薬の硝子体内注射を行っております。これにより、網膜血管の透過性を抑制し、網膜浮腫を軽減させることによって、視力の維持、改善が期待されます。

血管閉塞が広範囲に及んでいる場合、新生血管の発生により硝子体出血や血管新生緑内障が生じてしまうことがありますので、網膜の無還流領域に対してレーザー治療を行うこともあります。



網膜中心
静脈閉塞症

光干渉断層計(OCT)

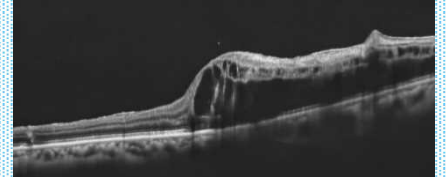


黄斑浮腫



網膜静脈
分枝閉塞症

光干渉断層計(OCT)



黄斑浮腫

◆加齢黄斑変性

主に加齢により黄斑が変性し障害される疾患で、萎縮型と滲出型に分類されます。

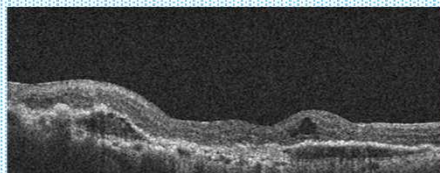
萎縮型は黄斑部の細胞や血管が萎縮することで障害されますが、滲出型は黄斑の後ろ側にある脈絡膜というところに、加齢などにより新生血管ができて、そこから出血や網膜浮腫を起こす疾患です。症状として急激な視力低下、変視症、中心の視野が欠ける（中心暗点）などを起こします。

滲出型加齢黄斑変性に関してはVEGFが、脈絡膜の新生血管の発生に関与しているといわれています。当院では、抗VEGF薬を硝子体内に注射しています。脈絡膜の新生血管を小さくすることで、視力を維持、改善が期待されます。



加齢黄斑変性

光干渉断層計(OCT)



加齢黄斑変性

月～金曜日まで
地域医療連携室に
て予約可能です

ぜひご紹介を
お願いします！

眼の症状は、充血、視力低下、飛蚊症、複視、羞明等、多岐にわたります。上記に挙げた疾患以外でも、目のことでお困り事がございましたら気軽にご相談ください。

